



野鳥の 不思議解明 最前線 #108 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2014

日本以外でも移入に成功しているガビチョウ。彼らも開拓者精神が高い？
撮影●内田博

開拓者精神で分布を拡大？

～ 見慣れぬものも積極的に食べる移入したイエスズメ ～

ぼくは比較的好奇心は強い方だと思いますが、それでも最近保守的になってきたかな、と思うことがあります。新しいことしない方が、楽ですものね。でもバードリサーチのような小さなNPOが保守的になってしまっただけでは、未来はありません。まずは開拓者精神を自分に根付かせようと「この店のカツ丼は美味いんだよね」とわかってはいても、そこには行かず、新たなカツ丼を目指すようにしています。

開拓者精神は鳥にとっても大切です。分布を広げたり、密度が高くなって競争が激しくなったりした場合は、新たな食物を開拓することが生存のために重要でしょう。でも開拓者精神が仇になることもあります。「これ食べてみよう」と挑戦したら毒キノコだった、ということもあるかもしれません。

移入種は本人が望んだわけではありませんが、開拓者として生きている鳥です。定着当初は新たな食物を得るために開拓者精神が重要ですが、安定してくると逆に開拓者精神は仇になると思われれます。そこで、LieblさんとMartinさんは、ケニアに移入したイエスズメ *Passer domesticus* を対象に、最初に定着した街と、そこから分布を広げて行った現在の分布拡大の最前線や、その途中の場所のイエスズメを捕獲し、室内実験でそのことを検証しました。ズズメたちに、彼らが見たことのない餌を与え、それに手を出すまでの時間を測ってみると、分布拡大の最前線のズズメはそれをすぐに食べたのに対して、定着の歴史が古いほど、なかなか手を出さないことが

わかりました。普段食べている餌を出した場合はどの地域のズズメも食べるまでの時間は変らなかったもので、空腹が原因ではなく、新しい食物への積極性を示しているのだと考えられます。

分布拡大の最前線で新しい食物への積極性の高い個体が多いのは、開拓精神の強い個体の方がどんどん新しい場所に移動していく傾向があるために、分布拡大の最前線ほど開拓者精神の高い鳥が多くなっただけかもしれません。ただ、移入の歴史が短い方が新しい食物に積極的だということが、個体群間の比較でも明らかにされており (Martin & Fitzgerald 2005)、新しく移入した場所では、開拓者精神が必要で、定着して安定すると、開拓者精神よりも保守性が有利になるとは言えそうです。

移入種には定着しやすい種と、しにくい種がいます。定着の成否には気象条件や競合種の多少など様々な要因が影響しますが、それにしてはイエスズメや、ガビチョウやソウシチョウ、メジロといった生態の異なる特定の種が定着しているように感じます。種による開拓者精神の度合いの違いも、移入の成否に強い影響を与えるのかもしれないですね。

紹介した論文

Liebla AL & Martin LB (2014) Living on the edge: range edge birds consume novel foods sooner than established ones. *Behav Ecol* 25: 1089-1096.

Martin LB & Fitzgerald L (2005) A taste for novelty in invading house sparrows, *Passer domesticus*. *Behav Ecol* 16: 702-707.